



COVER INTERVIEW *My Purpose* 挑戦する人

Photo by DOSHISHA SPORTS ATOM

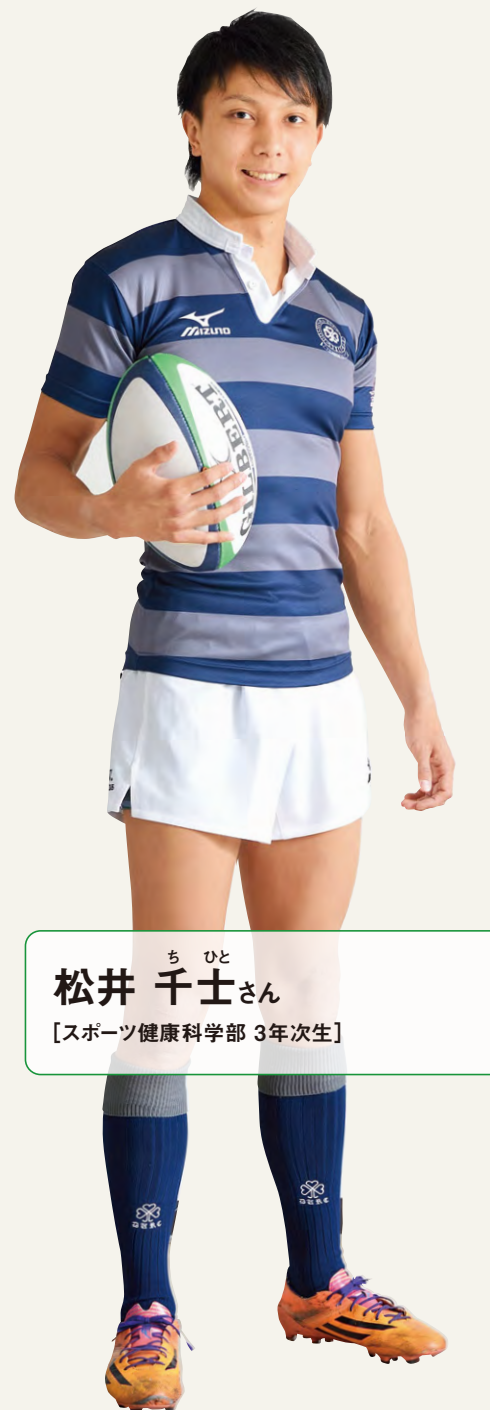
リオデジャネイロ五輪に挑む 日本屈指の快足トライゲッター

今年、8月に開催されるリオデジャネイロ五輪で、7人制ラグビーの日本代表「セブンスジャパン」が金メダル獲得に挑む。この出場権獲得を目指した予選でも、松井千士さんは第1戦の対中華台北戦で開始20秒後に50m独走トライを決めたのを始め、大会最多の9トライを奪うなど大活躍した。7人制と15人制のフィールドの広さは同じで、ルールもほとんど変わらないが、大きく異なるのが試合時間。7分ハーフ・計14分間と短く、より一層の集中力と瞬発力が求められる。「リオデジャネイロ五輪への出場が決まり、ひとまず安堵しました。7人制はオリンピック競技としては初の実施で、ラグビー界も非常に注目しています。もちろんプレッシャーはありますが、それを跳ね返して期待に応えたい。また、日本代表としての貴重な経験を同志社チームに還元できればと思っています」

松井千士さんが3歳年上の兄、謙斗さんと同じ「大工大ラグビースクール」に通い始めたのは小学校1年生の時。以後、今日までその背中を追い続けてきたという。必死でラグビーに取り組むようになったのは大阪屈指のラグビーの名門校・常翔学園高校に進学してからだと振り返る。「名高い強豪校なのでメンバーもすごい。大きな差を実感して、徹底的に鍛え直しました。監督も妥協を許

さない方で、『100%でやれ!』という言葉が心に深く残っています。高校時代の最高の思い出は、やはり『第92回全国高等学校ラグビーフットボール大会(花園)』で優勝したことです。初めての経験で、場内を揺るがすような大声援もすごかった」

同志社大学には明確な目標を掲げて進学した。日本で3番目の歴史を誇る名門チームの復活に邁進し、日本一の奪取に貢献することである。日々の練習は午後7時から約2時間。運動量は凄まじく、極めてハードだという。朝練は個別に指示があり、松井千士さんはウェイトトレーニングを重点的に行っている。さらに、現在の体重は80kgであるが、他の選手と比べて痩身であるため、1日6食の生活を続けて5kg増を目指している。また、卒業論文では自身を対象にした「スポーツ測定評価論」の実験などを試み、「なぜ、足が速くなったのか」を探究したいと考えている。これを客観的な視点から解明できれば、他のアスリートたちの強化にも役立つからである。オリンピック、日本一、ワールドカップなど挑戦は続くが、もう一つ、ぜひとも実現したい長年の夢がある。「豊田自動織機シャトルズ」で活躍する謙斗さんとの対戦である。誰よりも尊敬しているからこそ、「勝って兄を超えたい…」と熱く語る。



松井 千士さん
【スポーツ健康科学部 3年次生】

One Purpose

〈ワンパーパス〉同志社大学通信 186号

発行 同志社大学 広報部広報課
2016年4月1日(4・6・10・12月年4回)発行 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL 075-251-3120 FAX 075-251-3080
E-mail j-hkoho@mail.doshisha.ac.jp



One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

186

2016 April



COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

特集
01

新学長に聞く

特集
02

熱中! 文化系課外活動
— 座談会編 — — 国際交流編 —

同志社大
訪問

ブルースシンガー&ギタリスト
田中 名鼓美さんに聞く

Photo by DOSHISHA SPORTS ATOM

2 特集01 新学長に聞く

松岡 敬 同志社大学学長

5 特集02 熱中! 文化系課外活動

5 ー座談会編ー

9 ー国際交流編ー



11 SEMINAR ～ゼミ探訪 学びの時間～

神学部 三宅 威仁ゼミ

13 同志社の研究は今

アディボサイト&マッスルサイエンス研究センター
センター長 井澤 鉄也 (スポーツ健康科学部教授)

15 CAMPUS NEWS

ホームカミングデー2015・同志社創立140周年記念リユニオンを終えて／2015年度秋学期
外国語honors認定書授与式／「同志社フェアin熊本」開催／特定寄付奨学金募金協力者ご芳
名／グローバル・リベラルアーツ副専攻／新任教員紹介／退職教員／本学教員の執筆図書紹介

19 留学生紹介

マルコザ ユリヤさん
(日本語・日本文化教育センター)



20 INTERVIEW ～同志社人訪問～

ブルースシンガー&ギタリスト 田中 名鼓美さんに聞く



23 My Job, My Life ～私と「仕事」～

三木 貴さん (2002年 工学部電気工学科卒業/2008年 工学研究科博士課程(後期課程) 電気工学専攻修了)
高木 真子さん (2013年 経済学部卒業)

25 ANNOUNCEMENT

27 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

松井 千士さん
(スポーツ健康科学部 3年次生)



ご意見・情報を募集

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。
どうぞお気軽にご意見・情報を広報課までお寄せください。

※今号に登場する学生の年次などは取材時のものです

Feature article 01

特集01 新学長に聞く

Interview with the New President of Doshisha University

新島襄の教育理念の真意と、それに基づく建学の精神を繰り返し自己に問い、
人間としての在り方を模索し続けてほしい。
「良心」とは個々が実体験の中から体現するものである。



松岡 敬
同志社大学学長

まつおか たかし／1979年同志社大学
工学部卒業。84年同工学研究科博士後
期課程単位取得退学。87年工学博士(同
志社大学)。84年近畿大学工学部助手。
同専任講師を経て、91年助教授。93
年同志社大学工学部助教授。96年サリ
ー大学材料工学科客員研究員。98年同志
社大学理工学部教授。同医工学研究セン
ター長、同理工学部長、同副学長を経て、
2016年4月より現職。

Matsuoka Takashi

自己を深く知ることが思いやる心を育む。

行動を起こさなければ 結実は得られない

——新島襄の卓越した「志」について
学長の思いを聞かせてください。

幕末に日本の未来を憂いた新島襄は、21歳の時に鎖国の禁を犯して函館から脱国。翌年の1865年に渡米を果たします。米国のアーモスト大学やアンドーヴァー神学校で学び、岩倉使節団の田中不二麿文部理事官に同行して欧米を巡った彼は、人間教育が全ての礎であると確信します。激動する時代の中で「これからの日本は何を目指すべきか…」を模索し続けるうちに、「国内で有用であるだけでなく、世界からも高く評価される日本人を輩出する」ことが次代を拓く起点であると考え、キリスト教精神に基づく学校設立を決意したのです。その教育の基軸として「自らの良心に従い、成すべきことを果たす人材の育成」を目指しました。いわゆる「良心教育」です。そして、同志社は3つの教育理念を打ち立てました。「キリスト教主義・自由主義・国際主義」です。私はこの「主義」という言い方を「心」に置き換えて、「人を敬い愛する心（キリスト教主義）」、「個人を大切にすること（自由主義）」、「広い視野で世界を見つめ理解する心（国際主義）」と表現しています。新島襄は日々の暮らしの中で人を思い、絆を深め、自らの信念に基づき、日本さらには世界に尽くす逸材を育てようとしていました。これらは他に類を見ない人材育成の基本理念です。

同志社英学校が創立されたのは1875年です。実に140年以上も前に、新島襄は卓越した視点で日本と世界を捉え、グローバルという言葉がない時代

に、世界に通用する国際人を育成しようとしていたのです。欧米で学びたいという熱情を実現させ、英学校の開校から日本初の私大の設立を目指して奔走した烈風のような行動力にも心から敬服しています。いかに思考しても、行動を起こさなければ、結実は得られない。そのことを新島襄は身を以て示したのです。これも私たちが学び、受け継ぐべきことです。



——「同志社らしさ」に象徴される本学
の際立つ特色について教えてください。

建学の精神と教育理念を継承してきた本学には「各自の自発性を促し、個々の学びに導く」という体制と環境が整っています。「広く深い総合大学」として緻密で充実したカリキュラムを誇り、教員・職員の質も極めて高い。留学生も含めた多彩な個性と発想を持つ学生相互の交流も活発であり、教員と学生の距離が近く、一人ひとりの学生を心から大切に教育を日々実践しています。人間教育を根幹としているので、「人の育て方」が非常に丁寧です。各自が忌憚なく自

分の意見を述べることができ、それを温かく見守り支える教員、職員、先輩がいる。これらが本学の際立つ特色であり強みです。

社会で活躍できる人材になるためには、まず、自分の良さや強みを知り、自身の至らぬ部分や弱みも把握することが大切です。同時に他の人々に対しても、深い理解が必要です。常に相手の気持ちを思いやる心がなければ、信頼される人間にはならない。それらをしっかりと受け止め、尊重しながら、様々な活動の場を築き上げていく。そのような賢さと優しさを併せ持った人間育成を目指す体制と環境が一体となって「同志社らしさ」を創出しているのです。私自身も本学で学びましたが、このような学風の中で数多くの気づきを得て、考え方や生き方が大きく変化しました。「同志社に育ててもらった…」と実感しています。

新たな挑みを実らせるのは 「ALL DOSHISHA」

——これからの時代に向けた
「大学の在り方」について聞かせてください。

世界は一寸先も読みづらい不透明な状況が続いています。これに即応するためには、目指し取り組むべきことをこれまで以上に注視し、熟考と即行の両軸で臨まなければなりません。グローバルな視点による先端情報の収集力と分析力も不可欠です。これは、大学はもとより学生にも問われることです。本学でも次代に向けた様々な実践教育プログラムを新設し、新たな学びの環境づくりにも全力を傾注しています。しかし、個々の学生が積極的な姿勢を持たなければ、



Interview with the New President of Doshisha University

My off time

客員研究員として赴いた英国で紅茶の奥深さに魅せられ、帰国後も朝は必ず自らの手で紅茶を入れ、新たな一日に向かう英気を養う。20年以上の習慣であり、休日に野鳥のさえずりを聞きながら飲む一杯は格別とか。また、能楽・狂言、ミュージカル、コンサートなどの鑑賞も気分をリフレッシュさせるのに役立っているという。住まいは木津川市で、夫人と長男の3人暮らし（次男は下宿中）である。

机上の論議に終わる。まず、世界を知ること。歴史・学術・文化・宗教など様々な国際的教養を養う必要があります。これらを学習・経験できる体制と環境を備えた大学の中でも、本学はトップレベルに位置しています。知識を深め、見聞を広め、自らを高めてほしいと願っています。また、論理的に物事の是非を判断し、的確に把握できる力も欠かせません。これをサポートする新たな施策も必要です。

これからの改革は個々の大学の範疇にとどまっていたは、成果が得られない場合もあると考えています。世界を視野に入れたグローバルな連携が重要です。また、「社会とともに人を育てる」という視点も大切です。例えば、大学と企業は産学連携で研究開発を行っています。教育も同様の発想で取り組まなければならないと思います。これらは今後の日本にとって大きな財産になるはずです。また、理工学部長の時に学部再編を試みましたが、成し遂げるのは非常に大変でした。ここで学んだのは確かなビジョンに基づく自らの構想を的確に述べ、細部まで理解していただき、多くの応援を得ながら、各段階を確実に具現化していくということです。訴え続けたのは「ALL DOSHISHA」です。学長としての新たな挑みも、これを最重視しながら推し進めたいと考えています。

本学が誇る建学の精神を 学外に向けて広く発信

——社会に向けた「建学の精神」の積極的な発信も重要ですか。

本学の建学の精神、教育理念を社会に広く受け入れていただけるように、積極的に発信していかなければならないと考えています。これも次代に向けた新たなビジョンです。各分野の第一線で活躍しておられる卒業生「同志社人」も、この試みに大きく貢献していただけるはずです。同志社の「良心教育」を受けた数多くの方々がそれぞれの仕事に就き、そこで多くの人々を育成しておられます。この成果が学外における本学の評価に直結します。その波及効果は絶大であると期待しています。

また、本学のバックグラウンドである京都は千年余の伝統と文化を背景に、「人を育み、高める」という土壌が熟成しています。そこに根付いた「自主と進取」の精神が世界の最先端を走り続けるベンチャー企業の雄を生み出してきました。さらに、京都には学生を優しく迎え入れる気風が息づいています。いずれも本学の建学の精神、教育理念と交響するものであり、その価値の普及に大きく役立っていると感謝しています。

——本学で学ぶ学生に対して学長が
特に伝えたいことは何でしょうか。

新島襄の教育理念と、それを受け継いだ同志社の建学の精神を繰り返し自己に問い、それによって自分の考え方や生き方を探り、これを遂行するために欠かせない的確な判断力と果敢な実行力を培ってほしいと願っています。専門領域の探究だけでなく、人間としての在り方を模索し続けることが重要です。そのためには、いろいろな出会いや新たな経験を求め、これによって異なる個性と価値を自分の中に取り込み、自己を拡大しなければなりません。多彩な課外活動に積極的に取り組むことも役立つはずです。在学中から「社会における価値」も熟考すべきです。大学では「当たり前」と捉えていたことが、社会ではそうではないことは、いくらでもあります。「答えは一つではなく、解はいくつもある…」ことを熟知しなければなりません。はっきり言って建学の精神と理念を在学中に見極めるのは難しいかも知れない。「良心」とは何かの問いは、人間が生きていく上で、一生続くものだと思います。「良心」とは個々が実体験の中から体現するものであり、その高みを追い続けることに意義があるのです。

出会いの数だけ、 新たな学びがある。

それぞれが熱い思いを込めて取り組む課外活動。
そこにはかけがえのない出会いがあり、心を弾ませる
貴重な経験と達成感がある。各団体の第一線で活躍する
学生たちに「熱中の日々」を語ってもらった。



活動に打ち込むほど 日々が充実する

——現在の課外活動を選んだ経緯を
教えてください。

福吉 テレビ局のアナウンサーに憧れて、高校1年生の時から放送部に所属しました。特に音声による表現や伝達に魅力を感じ、「自分も挑戦してみたい!」と思ったのです。同志社でも入学してすぐにDSB同志社学生放送局に入りました。

丹羽 中学生の頃からコーラス部で活動し、高校時代は聖歌隊の隊長をしていました。同志社では、学内礼拝やキリスト教行事での奉仕にも参加できるので、学生聖歌隊に入りました。また、キリスト教文化センター事務室の学生スタッフとしてキリスト教関連の様々なプログラムの企画・運営にも関わっています。

吉田 能楽はまったく「未知の世界」でした。入学当初に勧誘していただいた先輩の人間性に魅せられたのが動機です。

私と同じ体育会系出身者が多く、また多様な経歴を持つ魅力溢れる部員が数多くいて、続けられそうだと思い入部を決めました。

北浦 以前から地域の人々に関わる活動がしたいと考えていました。入学後、地域連携ができるようなサークルや団体を探したのですが、私の思いと合致するものがなかったのです。しかし、その思いをあきらめられずにいたところ、2年次生になる直前の春休みに学生スタッフARCOを知りました。活動の目的や内容を聞いて「これだ!」と即決し、すぐに参加しました。

——それぞれの課外活動の具体的な内容を聞かせてください。

丹羽 毎週火曜日のチャペル・アワー(神学館礼拝堂)で讃美歌を奉仕し、半期に1度か2度行われる音楽礼拝でも歌います。礼拝での讃美歌の選曲も任されており、心から誇りに思っています。また、クリスマスの時期には両キャンパスで実施されるツリー点灯式や同志社CLS(キャンドルライトサービス)、同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝など

にも参加しています。

また、キリスト教文化センターの学生スタッフとしては、フリーペーパーの編集や大学生協とのパンのコラボレーション企画などを行っています。

福吉 学生放送局は基本的にはアナウンスルーム、ミキシングルームに分化しており、双方に関われる両ルームもあります。私はアナウンスルーム専属で、週に2回・各90分間、発声やニュース原稿読み、本の朗読などの練習をしています。また、平日(月曜～金曜)の昼休みには学内向けの「昼放送」を行っています。最近、私が担当しているコーナーは「みんなの知らない最下位の世界」。例えば、ゆるキャラやコンビニ弁当などをテーマに、それがなぜ最下位なのか、その理由を興味深く伝えています。

吉田 能楽という日本の際立つ伝統芸能の魅力を一人でも多くの人に伝えていきたいと考えています。私たちの師匠である能楽師の先生に指導していただいた成果を、定期発表会「同志社観世能」などで披露し、昨年は全国学生能楽コンクールにも参加しました。最近公演の依頼も増えています。部員数も順調に伸びており、もうすぐ60人前後になります。

「強くなった
「伝えたい」という気持ち

人と向き合うことの
大切さを学んだ

伝統の中で
新たな展開を
つくり出した

学生の時に
「人のためになること」を

学生放送局
福吉 貴文さん

社会学部社会学科
3年次生

学生聖歌隊
キリスト教文化センター
学生スタッフ
丹羽 眞理恵さん

神学部
3年次生

能楽部観世会
吉田 旭宏さん

法学部法律学科
3年次生

ボランティア支援室
学生スタッフ
ARCO(アルコ)
北浦 真成さん

社会学部社会学科
2年次生

北浦 「ARCO」という名称の「AR」は英語の「AREA:地域」、「CO」は接頭語で「一緒に、共に」という意味です。また、「アルコ」はスペイン語で「虹」を表しており、学生と地域を結ぶ「架け橋」としてボランティア活動を積極的に支援し、活性化を図りたいと考えています。活動を続けるうちに、地域の方々の思いも自分のことのように感じられるようになってきました。

社会からは、学生の自由な発想や若い力が求められています。躊躇せず、一歩踏み出せば、大きく貢献できると確信しました。

感激の体験の数々は いつまでも色あせない

——それぞれの最近の取り組みや成果などを教えてください。

福吉 2015年度「第32回NHK全国大学放送コンテストアナウンス部門」で優勝しました。本部門には全国から180人が応募し、最終審査に挑めるのは10人です。自分でまとめた取材原稿と、ステージで手渡される原稿のアナウンスの2つで優勝を競います。私がテーマに選

んだのは京ことばの「…はる」という助動詞です。敬語表現だと聞いていたのですが、どうも使い方が曖昧で疑問を感じていました。3カ月ほどかけて取材を重ね、分厚い文献を6冊ほど読み切り、最終的に「尊敬の意味もあるが、実は京都人の『やさしさ』という文化に培われた表現」だという結論に至りました。際立つテーマ、絞り込んだ端的な原稿、アナウンスの技量。この3つがポイントでした。優勝は私にとって大きな成果です。

丹羽 2年次生の時に学生聖歌隊の指揮者を務めました。キリスト教文化センターの学生スタッフとしてはフリーペーパー「YES!!!」を創刊し、年に数回発行しています。3つの感嘆符で本学の3つの教育理念とキリスト教の教えである三位一体を表現しています。学生が目線で記事を掲載し、企画制作も全て学生の手で行います。また、学生スタッフの発案で「諸教派の礼拝」を研究しておられる先生のレクチャーを受けながら「教会めぐり」も行っています。その他にクリスマスシーズンにはキリスト教に関するネーミングのパンを企画(大学生協が販売)したり、クリスマスリース作り教室なども実施したりしました。

吉田 2015年度「第7回全国学生能楽コンクール」で優秀賞を受賞しました。演目は「春日龍神」、私はシテ(主役)を務めました。「絶対に入賞する!」という一心で練習を重ね、本番では全員が最高の力を出し切ったので、獲得できたと思っています。90年以上の歴史を誇る能楽部観世会を、はっきりと目に見える成果によってアピールできたことが最大の収穫です。

北浦 ARCOでは、昨年の7月に「四季体感イベント」を本学の志高館で始めました。対象は地域の小学生ですが、子どもたちはもとより保護者の方々にも喜んでいただいています。初回は七夕、2回目はハロウィン、3回目はクリスマスをテーマにした交流企画を展開しています。他には「講演会企画」として「京のわらべ歌」と「コーポラティブハウス」の企画を実施しました。前者は地域にお住まいの方からのご依頼で実現しました。後者については地域の方に講演を依頼しました。「コーポラティブハウス」とは入居希望者が組合を結成し、土地の取得から設計、施工、管理までを共同で行う住宅のことです。



— これまでの課外活動で得た「学び」について聞かせてください。

北浦 何よりも実感したのは「人との繋がりが」です。私たちの活動は「人に会うこと」が全ての前提になりますが、その中で「個々の点が繋がり、線になっていく」のを数多く体験しました。また、多様な価値観があることを知り、先入観や固定観念を排して対話することの大切さも学びました。もう一つは組織の運営。これも初めての経験ですが、ミーティングの進め方などの技術的な面も含めて勉強になりました。

吉田 福吉さんのアナウンスでも同じだと思いますが、「人に伝える」、「人に伝える」ということを考え続けてきました。そのためには、相手の心に飛び込み、それをわしづかみにする果敢さが必要です。能楽では、見えないものを、見せなければならぬ。たとえば、「人を斬る」という所作であれば、まず自分の中で「誰が誰を斬っているのか」を見定めなければなりません。それが待だとすれば、武士としての気迫が観客に伝わった時、初めて侍同士の斬り合いに見える。

これは法学部で学んでいる解釈論と相通じるものがあります。ある規範・ルールという大前提を自身にインプットしてから、自分の中で消化して「人に伝える」時、初めて「人に伝える」のです。

丹羽 人と向き合うこと、その機会を広く求めることの大切さを実感し、そこから大きな学びが得られることを知りました。例えば、学生聖歌隊の指揮者は一人ひとりの異なる意見を全て聞き入れることはできません。しかし、最良の判断を下すためには、それぞれの思いを真摯に受けとめることが必要です。個々の心に触れなければ、全体としての最善の方向は見えてこないからです。また、キリス

ト教文化センターの学生スタッフとしてはフリーペーパーの創刊から関わり、編集長も経験しました。その1年間でスタッフに時には厳しく接することの重要さも学び、外部との窓口を担うことで「大人としてのコミュニケーション・マナー」も身に付けられたと思っています。

福吉 「たくさんの人と出会うこと、その方々の話を聞くこと」が自分を変えてくれたと感じています。以前は人と会話することが不得意でした。しかし、取材などを通じて異なる感性や個性を持つ方々と出会い、様々な考え方を知り、次第に苦手意識が薄らいでいきました。

学生放送局での3年間の活動は、自分の成長に大きく繋がったと思います。

— 数々の活動の中で特に心に残っていることは何ですか。

丹羽 学生聖歌隊の指揮者をしていた頃のことです。その日の音楽礼拝の最初の讃美歌にモーツァルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を選びました。この時の礼拝では大学院生の方が奨励を担当されていたのですが、終わった後、私の前まで来られて「あの曲ですごく心が落ち着きました。本当にありがとうございました」とお礼の言葉を述べられたのです。それがうれしくて、今も心に深く残っています。

北浦 私が企画した「四季体感イベント」に初回から続けて参加してくれている小学校2年生の子どもがいますが、活動をする時に付けているネームプレートですぐに私の名前（「北浦」なので「きっちゃん」）を覚えてくれて、今では「きっちゃん!」と呼びながら抱きついてくれます。本当にうれしい。地域活動に携わって良かったと感激しました。

福吉 小学校で弾き語りなどの活動をされている盲目のシンガーソングライターに取材をしていた時のことです。何度もお伺いしてお話を聞いていたのですが、ある日「僕、本当は寂しいんだよね」とつぶやかれたのです。その一言が私の心に重く残りました。でも、その一言を

聞けて良かった。真摯な姿勢で臨んでいたからこそ、引き出せた言葉だと感じ、「これを伝えたい!」という強い思いを抱くことができたからです。

吉田 第7回全国学生能楽コンクールで優秀賞を受賞したこと以上にうれしかったのは、それを機に数多くの公演依頼が来るようになったことです。創部90年目にして初めてコラボレーション活動もできるようになり、「伝統の中で新たな展開をつくり出した」というのが最も印象深いことです。

何よりも大切なのは一歩を踏み出すこと

— これからの課外活動の展望について聞かせてください。

吉田 他の団体とのコラボレーションを継続しながら、さらに新しい発信ができればと願っています。これからは行政機関などの協賛も得て、活動の幅を広げていきたいと思っています。9年後には創部100周年を迎えますので、部員の数も100人前後まで増やしたい。同志社と京都にとって、できれば全国的にも、能楽部観世会が不可欠な存在になれば最高です。

北浦 これからのことを考えると、やはり組織固めが重要だと考えています。私たちの手で基礎を構築し、後輩たちに引き継ぎたい。スタッフも20〜30人に増やせればと思っています。ボランティアについて潜在的には関心のある学生も多いと思うので、私たちが、その第一歩を踏み出すお手伝いができればと考えています。

丹羽 チャペル・アワーでは学生スタッフが司式を担当しているのですが、将来はパイプオルガンの演奏も行えればと考えています。他の大学や団体とのコラボレーションにも積極的に取り組みたいと思っています。

福吉 取材活動から原稿作成までを含めたアナウンスの楽しさを後輩に伝えていきたいと思っています。また、4年次生になっても後輩の指導に力を入れていくつもりです。

学生放送局



創部は1953年。毎年、入局する学生が多く、現在は145人がアナウンスとミキシングに携わり、昼放送を始めNHK全国大学放送コンテストなどの番組制作に取り組んでいる。



学生聖歌隊



創部は1948年。同志社学生聖歌隊は1948年6月28日に起こった福井大震災へ送られた同志社救援隊の中から生まれた。現在は多彩なキリスト教行事での讃美歌の奉仕を主な活動としている。



能楽部観世会



創部は1925年。本学の能楽部観世会は全国の大学の中でも最古の伝統を受け継いできた能楽部の一つである。毎週2回、能楽師の先生方による直接指導を受け、仕舞や謡の上達を目指している。



ボランティア支援室 学生スタッフARCO



現在の学生スタッフARCOの姿になったのは2015年。活動を開始してまだ間もない団体だが、既に、いくつもの継続的なイベント企画を立ち上げ、いずれも地域の方々に好評を博している。



— 本学の課外活動に対するバックアップについてどのように感じていますか。

丹羽 手厚く支援していただいていると感じています。チャペル・アワーなどでの讃美歌の合唱では謝礼をちょうだいしており、ボイストレーナーの先生をお迎えするための費用に充てています。また、今出川と京田辺の2校地を繋ぐ無料シャトルバスの運行も本当に役立っています。

福吉 放送設備は非常に高価ですが、全てプロ仕様で極めて充実しています。機材が壊れても迅速に対応していただけるので助かっています。放送の運営や内容に関しても学生に一任されています。これも自主性を導ぶ「同志社らしさ」だと感じています。

吉田 3つの教育理念に加えて京都という立地、その歴史・文化も重視していただき、それらが課外活動の支援にも大

きく反映されていると実感しています。

北浦 ボランティア支援室の学生スタッフという位置付けで、活動に必要な経費は基本的には大学から支援を受けています。会議や催事のための機器や施設も活用できます。それだけでなく、学生のやりたいことをしっかりと受け止めてくれる、そのような支援に建学の精神「良心教育」を感じています。

— 最後に本学の学生に向けたメッセージをお願いします。

福吉 私は迷うことなく学生放送局に入りましたが、何をしたら良いのかわからない方も多いと思います。でも、自分探しのためにも課外活動は役立つはずです。立ち止まらずに、実際に行動してみることが大切です。仮にその団体が合わなくても、素晴らしい人との出会いがあるかも知れません。

丹羽 私もとにかく参加してみることでと思います。コミュニティに加われれば、新たな出会いが生まれます。その数が多ければ、それだけ交流も広がっていきます。

吉田 大学の4年間は人生の中で一番自由な時間を満喫できる時です。だから、自分で主体的に選び、それに打ち込み、何かを成し遂げてほしいと思います。

北浦 ボランティアというのも課外活動の選択肢の一つです。大学生の時に「人のためになること」に純粋に取り組んでみる。きっと将来に生かせる貴重な経験になると思います。



世界を結び、次代を拓く 熱き仲間たち

国際交流をテーマに学外の団体や事業に積極的に参加し、グローバルな視点と果敢な行動力で活躍を続けている学生たちがいる。その中で2人の学生から、国際的な課外活動の意義を聞いた。



吉田 佑樹さん

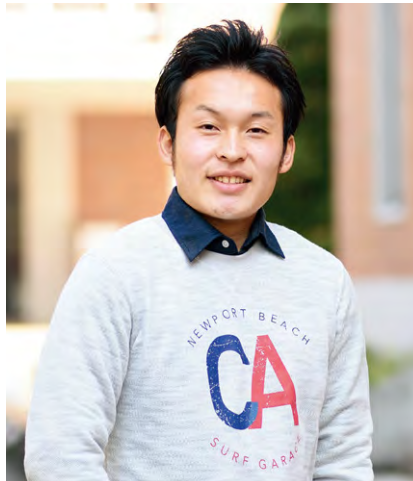
政策学部
3年次生

国際交流の経験を国際協力に活かす
「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」でヨルダンへ

——2014年に参加した内閣府「国際青年育成交流事業」について教えてください。

この事業は平成5年の皇太子殿下の御成婚を記念して翌年から開始されました。日本青年の海外派遣と外国青年の日本招請からなる双方向の事業です。高校時代に本事業を知り、大学生になったらぜひ応募したいと思っていました。選択できる3カ国の中から最も「未知の国」であったドミニカ共和国を選び、18日間（9月6日～23日）の派遣で数多くの貴重な体験をすることができました。

同国の青年大臣を表敬訪問した際には、大臣自らが両国の青年に対する将来の期待を語ってくださいました。現地大学生とのディスカッションでは両国が直面している社会問題などについて語り合い、互いに理解を深めました。特に印象に残ったのは彼らの目的意識の明確さです。今後どのように社会へ貢献していきたいのか、彼らのビジョンは鮮明でした。日本文化の紹介では、日本の四季や日常生活など多彩な視点から案内し、日本の炭鉱節とドミニカ共和国発祥の音楽であるメレンゲを披露し合う交流も行いました。また、帰国後、日本派遣青年と外国招請青年が一堂に会する国際青年交流会議において皇太子殿下御臨席の下、



平成26年度内閣府「国際青年育成交流事業」に続き、「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」の多様な人材コースで派遣決定!

日本参加青年代表としてスピーチをしたことも忘れられない思い出です。

——「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」の概要やヨルダンでの活動内容を聞かせてください。

これは、グローバル人材の育成を目的とした官民協働海外留学支援制度です。2020年までに民間企業や団体から200億円を目標に寄附を募り、約1万人の学生を海外に送り出すという壮大な計画です。留学といっても、フィールドワークやボランティアなど社会との接点を持つ実践活動を含む計画が支援の対象です。学生自ら立案した留学計画を「トビタテ!」に応募し、採

否が決定されます。同志社大学からは1～4期で計12人が採用されています。私の場合は、国際協力・難民支援・イスラム世界への関心などを軸に留学先をヨルダンに絞り込み、今年の3月から1年間、シリア難民青少年の教育支援に携わる予定です。国際交流の経験で培った異文化理解への姿勢を崩さず、現地での活動に取り組みたいと考えています。卒業論文のテーマも「難民青少年の教育支援」を想定しています。

——課外活動は学生生活やこれからの歩みに役立つと考えていますか。

新たな経験によって自分の世界を広げていくことは非常に大切だと考えています。何かに挑戦するときには緊張感が伴いますが、一歩踏み出せば、多彩な人々と価値観との出会いがあります。こうした経験のおかげで、これまでとは全く異なる未来が見えてくるかもしれません。例えば、「国際青年育成交流事業」で寝食を共にした仲間とは密度の濃い交流ができ、今でも頻繁に会っています。「トビタテ!」では、派遣留学生や支援企業の方々と継続的に交流できる「グローバル人材育成コミュニティ」に参加できます。課外活動に参加することで得られる日本での、そして世界での出会いは、将来に繋がる“かけがえのない宝物”だと言えますね。



安居 綾香さん

グローバル地域文化学部
3年次生

日本とルワンダの観光振興をテーマにした京都会議で
日本学生支援機構 優秀学生顕彰事業の大賞を受賞!

——アフリカなどの発展途上国に関心を抱くようになった契機は何ですか。

初めて世界の飢餓や貧困の現状を知ったのは、生徒会の文化祭企画で『世界がもし100人の村だったら』（池田香代子著・マガジンハウス）を取り上げた中学1年生の時です。特に先輩が見せてくれた1枚の写真に強い衝撃を受けました。そこには「幼い男の子が汚水を飲んでいる姿」が写っていたのです。その後、国連食糧農業機関（FAO）が定めた「世界食料デー」に関わっている牧師さんに出会い、その活動に参加する中でアフリカなどの実状もわかり、発展途上国が抱える問題を考え続けるようになりました。

——「日本ルワンダ学生会議」の目的や特徴、具体的な活動について教えてください。

ボランティアではなく、両国の相互理解を目的にした学生団体です。学生会議は年に2回開催し、互いに渡航・招致を行うことによって交流を深めています。そのための助成金を集めるのも活動の一環であり、各自が関心を持っている分野をテーマにした勉強会も実施しています。学生だからできることに力を注ぎ、その継続的な活動が両国の友好の促進に結び付けばと願っています。ルワンダは中部アフリカに位置



2015年度日本学生支援機構（JASSO）優秀学生顕彰事業「国際交流」分野で大賞を受賞!

する国で、私が生まれた1994年に部族間の対立による虐殺が起りましたが、現在はIT産業などで急成長しています。もちろん、発展途上国であり、貧困から脱することができない人々も多くいます。その「光と影」の両面を日本に的確に伝えたいと頑張っています。

——今回の受賞の対象となった京都企画について教えてください。

「日本ルワンダ学生会議第12回本会議」では佐賀・京都・東京の3地域を選び、ルワンダの国立大学の学生5人を招いて実施しました。その中の京都企画を私が担当しました。具体的には観光産業をテーマに文化・

政策・企業の3つの観点からフィールドワークを試みました。ルワンダは観光振興を図っており、京都観光を多角的な視点から見聞することが次代に役立つと考えたからです。文化では茶道を取り上げ、「体験型の観光」を実感してもらいました。政策では京都府庁で行政の多彩な取り組み、伝統工芸品の継承施策などを教えていただきました。また、企業では世界のトップブランドとのコラボレーションで新たな領域を切り拓く西陣織の老舗・榊尾様、オリジナルツアーの展開、外国語の話せるドライバーの育成など「国際観光都市・京都ならではのサービス」を展開するエムケイ（株）様で貴重なお話をお聞きしました。

——課外活動の意義、これからの展望などについて聞かせてください。

相互理解のための様々な活動によって世界を深く知ることができ、視野が大きく広がりました。キャンパス内での留学生との交流にも役立っています。卒論のテーマは植民地主義の視点に基づく「非旧イギリス植民地へのコモンウェルス拡大—モザンビークとルワンダの事例から—」を想定しています。卒業後はアフリカなど発展途上国の伸展に寄与する仕事がしたいので、そのようなことにも力を注いでいる企業に就職できればと考えています。



神学部

【神学部教授】

三宅ゼミの概要

現代人の思考に大きな影響を与えている近現代の偉大な思想家を取り上げ、その宗教観を本人の著書を精読することによって深く学ぶゼミである。フロイトは神経病理学者として人間の無意識の世界の深淵を探究し、性の衝動を起点とする精神分析学を創始した。テキストに用いている『精神分析学入門』は、一般聴衆に向けて行った講義をまとめた代表的な著作である。



無意識の世界を提示し人間観を改革した思想家

このゼミは「近現代思想家の宗教観」をテーマにした一連の科目の中の一つである。フロイトの他にこれまで取り上げてきた思想家は「近世哲学の祖」と称されるデカルト、遺稿集『パンセ』などで名高いパスカル、世界的な文豪トルストイ、分析心理学を創始したユングなどである。いずれの場合もテキストに用いるのは本人の著書（翻訳）であり、第三者による解説書は排している。これが「著者との対話」を最重視する三宅教授の絶対的な方針である。「フロイトは現代人の事象に対する考え方の原



▲テキストに用いるのは思想家の自書

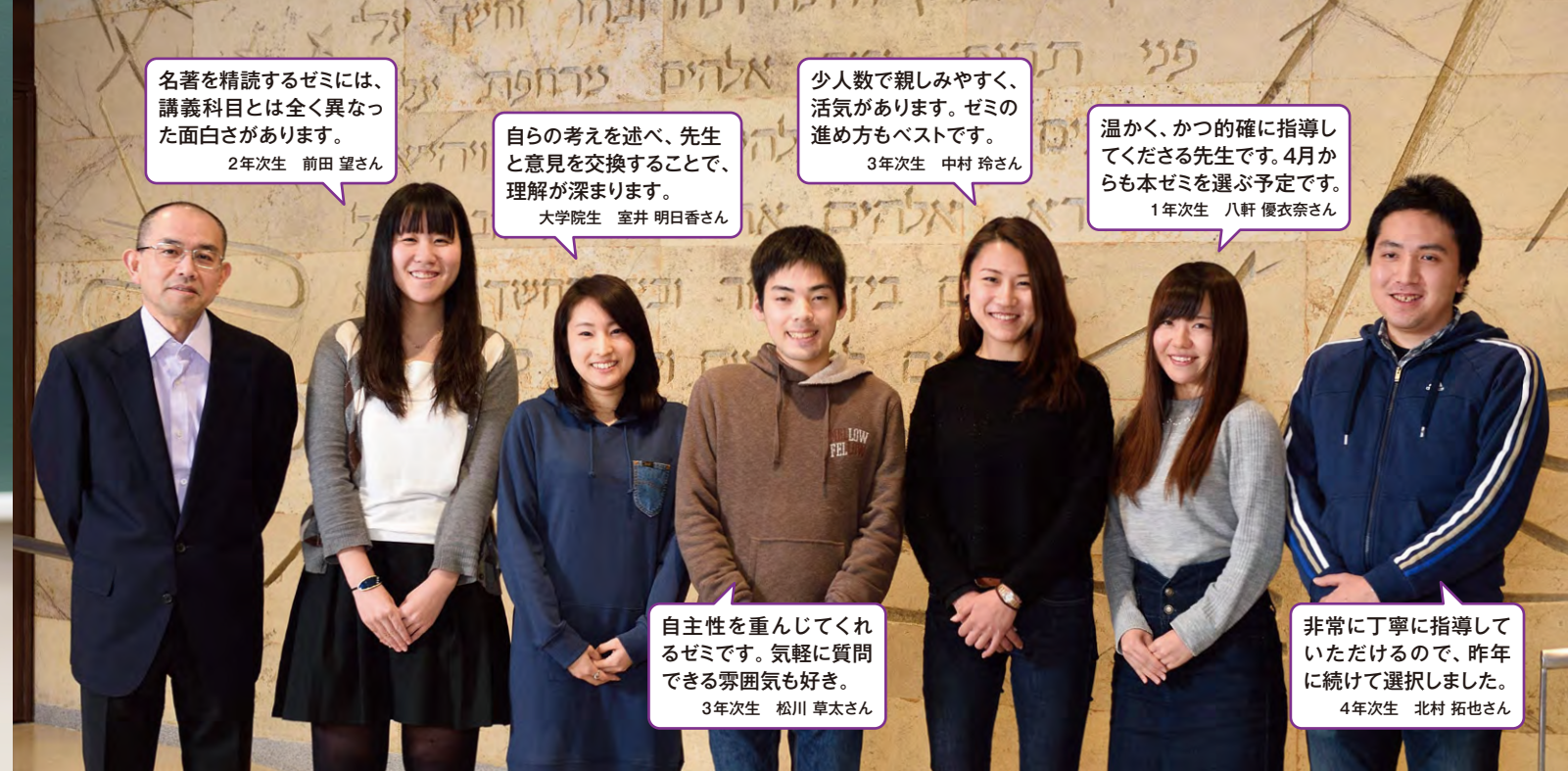
点を形作っている一人です。一世紀以上前の人々は無意識の重要性を知らなかった。しかし、今日では自明の理となっています。このように彼は一般人の思考にまで多大な影響を及ぼしている非常に重要な思想家です」。今回、テキストに『精神分析学入門』を選んだのは、本書が医学部以外の聴講者も強く意識して行われた講義をまとめたものであり、入門書として最適だと判断したからだという。本ゼミを通じてフロイトについての基礎的な知識を養い、その上で『トートムとタブー』や『幻想の未来』などの論文を読破し、この偉大な思想家の宗教観を探究してほしいと三宅教授は語る。「実は、フロイト自身は宗教を低く評価し、幻想だと見なしていました。にもかかわらず、現代の宗教研究は彼の影響なしには考えられません」

名著を熟読すれば、やがて「著者が私に直接語りかけてくる…」といった体験が得られ、高名な思想家が人生や世界についてどのように考えていたかを深く学ぶことができる。それが読書の何も

のにも代え難い価値であり、その素晴らしさを実感することが本ゼミの最大の目的である。また、名著を次々と読破すると、異なった思想が思いがけなく繋がりが合うことがある。「例えば、トルストイを取り上げたクラスでは『人生論』を読みました。トルストイは『人生論』において死を乗り越える方法を探し求め、生命は集合的なものであるという思想に到達しました。それはユングの『集合的無意識』という考えと重なり合うところがあるという発見がクラスでありました。このような新たな考察があれば、さらに興味深い思索ができます」

著書の精読と考察で精神分析学の根幹を探究

指名された学生がテキストの一部を音読する。その部分を他のゼミ生も真剣に黙読している。読み終わると、三宅教授が端的な解説を加え、質問によって理解を促し、さらに全員で意見を交わす。これが本ゼミの基本的な進め方である。例えば、覚醒夢に関しては「人



名著を精読するゼミには、講義科目とは全く異なった面白さがあります。
2年次生 前田 望さん

自らの考えを述べ、先生と意見を交換することで、理解が深まります。
大学院生 室井 明日香さん

少人数で親しみやすく、活気があります。ゼミの進め方もベストです。
3年次生 中村 玲さん

温かく、かつ的確に指導してくださる先生です。4月から本ゼミを選ぶ予定です。
1年次生 八軒 優衣奈さん

自主性を重んじてくれるゼミです。気軽に質問できる雰囲気も好き。
3年次生 松川 草太さん

非常に丁寧に指導していただけるので、昨年に続けて選択しました。
4年次生 北村 拓也さん

▲本ゼミに集う学生は、学部生から大学院生まで幅広く、選んだ意図も多様

間は自身が秘めた願望を覚醒夢で充足しようとしており、これは眠っている時に見る夢を解明するための重要な手掛かりになるとフロイトは語っている…」と指摘。さらに、この覚醒夢から芸術家が創作のヒントを得ていることに言及し、それを代表する事例としてシュルレアリスム（超現実主義）の作家や画家、映画監督の名前を黒板に記す。詩人・文学者のブルトン、画家のダリ、映画監督のブニュエルなどである。

夢の解釈では「夢は心的な現象である」、「人間には無意識の領域があり、夢を見た人はその意味を本当は知っている」という前提を改めて押さえ、「夢を見た人に向かって直接その意味を問う」のが最善の方法であるというフロイトの主張を再確認。続けて学生に最近見た夢を聞く。これに答えて提示されたのは「教室のような室内の椅子に座していると、窓から鳥が飛び込んできた…」という夢であった。直ちに「その鳥は何を意味しているのか」と三宅教授が問う。学んだばかりの技法の実践であり、非常に興味深い。学生の誰もが主体となり、思索を推し進めることのできるゼミであった。

名著の精読を通じて思索の大切さを学べるゼミ

本ゼミに集う学生は1年次の学部生から大学院生まで実に幅広い。

神学部を選択した理由やこのゼミを志望した意図も多様である。3年次生の中村玲さんは宗教が世界の動向に大きく影響していると感じ、人間・文化・歴史などを広く学んでみたいと思ったのが動機である。フロイトにも以前から興味があり、その宗教観を深めるために本ゼミ

という目標に向けて、自在にカリキュラムを組み立てられるので神学部を選んだ。関心のあった精神分析の基礎を学ぶのに本ゼミは最適だとほほ笑む。大学院生の室井明日香さんは中学・高校の礼拝と聖書の授業で神学に心ひかれ、聖書科教員を目指している。フロイトは



▲誰もが主体になって思索できるゼミ

を選んだ。4年次生の北村拓也さんは友人の自殺を契機に生死について熟考するようになり、神学部へ進んだ。本ゼミは、前年度から続けて受講している。「フロイトが無意識という概念を知らない人々に懇切丁寧に解き明かす過程は、非常に刺激的です」。3年次生の松川草太さんは、探究したい中世哲学にフロイトに関する基礎知識が不可欠だと考えて受講した。

高校では国際コミュニケーション科で英語力を鍛えていた1年次生の八軒優衣奈さんは、海外で日本語教師になりた

深く学びたい思想家だったという。2年次生の前田望さんは8歳の時に読んだ『アンネの日記』がホロコーストなどに関心を抱ききっかけになった。本ゼミを選択したのは卒業論文の知識を養うためであり、また、在学中にイスラエルへの留学を目指している。

それぞれ個々の道を歩むゼミ生たちだが、異口同音に語るの「名著の精読がこれまでにない貴重な学びになっている」ということである。その実感は三宅教授が掲げるゼミの目標と見事に合致している。

研究成果は生活習慣病の予防・改善に貢献し、効果の高い運動処方方法の開発に役立つ。

アディポサイト&マッスルサイエンス研究センターでは、スポーツ健康科学という観点から「運動による健康寿命の延伸」に主眼を置き、脂肪組織と骨格筋に焦点を絞った研究を続けている。2013年4月に開設され、脂肪組織の生理機能の乱れによって生じる身体の変化を解明するアディポサイエンス（アディポ：脂肪）と筋機能の退化や運動処方方法を探究するマッスルサイエンス（マッスル：筋肉）に分化して推し進められている。

超高齢化社会が進む中で大きな課題となっているのが、健康上の問題がない状態で日常生活が送れる期間を意味する健康寿命の延伸である。本研究センターの研究成果は高齢者の「QOL（Quality of Life）」の向上に役立つ他、増加し続ける国民医療費の軽減にも貢献でき、アスリートに向けた新たなトレーニングプログラムの提供などにも直結する。

アディポサイト&マッスルサイエンス研究センター

センター長 **井澤 鉄也**

【スポーツ健康科学部教授】

1956年生まれ。1981年筑波大学体育研究科健康教育学専攻修了。東京薬科大学薬学部助手・講師、電気通信大学電気通信学部助教授、東京都立大学大学院理学研究科博士課程助教授・教授、首都大学東京大学院人間健康科学研究科博士課程教授を経て現職。高校時代に会った体育の先生の影響で本分野を目指す。オフタイムはスポーツ観戦や気軽に読める時代小説などで気分転換を図る。



生理活性物質の分泌異常が生活習慣病を引き起こす一因になる

2020年には65歳以上の高齢者人口が日本の総人口に占める割合は30%を超えると予測（総務省統計局）されている。このような超高齢化社会において注視されているのが「生活の質（QOL）」の向上である。そのために、健康寿命を延伸させることが急務となっている。健康寿命の延伸を妨げる大きな要因となっているのが高血圧や糖尿病、脂質異常症（高脂血症）などを進行させる生活習慣病（メタボリックシンドローム）であり、長期間に及ぶ寝たきり状態（ベッドレスト）や老化に伴う筋機能の低下などの運動器障害（ロコモティブシ

ンドローム）である。メタボリックシンドロームが起こる要因として、脂肪組織や骨格筋組織から放出される生理活性物質（身体の働きを調節する役割を担う化学物質の総称）による相互の代謝調節機構（代謝クロストーク）の乱れが指摘されている。本研究センターではこうした代謝クロストークの分子機構を探究し、運動と不活動の影響を解明しようとしている。この研究成果は肥満を防ぐ新たな運動処方方法の構築に役立ち、その基盤的知見を提供することによって運動効果を模倣する薬や栄養補助食品の研究・開発にも貢献できる。

「脂肪組織は、かつて『エネルギーの貯蔵庫』と見なされていましたが、今日では重要な内分泌器官であることが判明しています。また、骨格筋も様々な生理活性物質を放出する事が分かってきました。脂肪組織から放出される生理活性物質をアディポカインと呼び、骨格筋から放出される物質をマイオカインと総称します」。これらが相互に働きかけて身体全体のエネルギー代謝の生理的な恒常性（ホメオスタシス）を維持していると考えられており、長期間の不活動や過剰な栄養は、この生理活性物質の分泌異常を生み出し、生活習慣病を引き起こしてしまう。

時計遺伝子の発現リズムによって脂肪分解反応に差異が生じる

現在、アディポサイエンスで重点的に研究しているテーマの一つが「肥満の予防・改善を目的とした運動の最適実施タイミングの追求」である。運動の最適実施タイミングは脂肪組織に内在する時計遺伝子の発現リズムに基づいて同定しようとしている。脂肪組織の生理機能は時計遺伝子と称されるサーカディアンリズム（日周リズム）を決定する分子群によって調節されている。サーカディアンリズムというのは、脳の中枢や末梢組織で発現している昼夜で変化するリズムのことである。「私たちの実験でも同様の結果が出ています。そして、ある分子のリズムがピークの時に運動トレーニングを行った方が、脂肪分解反応がより高

くなることもわかりました。運動は実施するタイミングによって効果が異なるのです」



もう一つのテーマは「脂肪組織の細胞の数や大きさに因む肥満の予防・改善」である。「体脂肪率が30%を超える集団に関する研究データがあります。体脂肪率が同じであっても、脂肪の数は多くないが、個々の細胞が大きい人の方が脂質代謝に異常が多いという傾向が示されています。脂肪細胞のサイズが大きいと脂肪組織に

慢性的な炎症が起こりやすく、生活習慣病に結びつきやすいと考えられています」。また、以前は成人後の脂肪組織の細胞の数は不変であると考えられていたが、今日では変動するとされている。脂肪細胞の数の調節は、脂肪組織にある脂肪組織由来幹細胞の分化が関与している。この細胞は多能性細胞で、さまざまな細胞に変化（分化）することができるが、運動トレーニングを行うと脂肪組織由来幹細胞の脂肪細胞への分化は抑制され、血管内皮細胞の数が増加することを井澤教授らのグループは報告している。脂肪組織の血流が増す事によって組織の低酸素状態が起こりにくなり、炎症の防止にも繋がる。

不活動の典型である宇宙飛行士は筋機能低下が短期間で顕著化

マッスルサイエンスでは「不活動時の筋萎縮メカニズム」を探究し、「生活の質（QOL）」の向上を目指している。その成果はアスリートに向けた新たなトレーニングプログラムの提供や宇宙医学の発展に貢献できると考えている。寝たきり状態などによる不活動の状態が続くと筋萎縮が生じる。その象徴が、長期間にわたって無重力の宇宙空間に滞在する宇宙飛行士である。「不活動の典型が宇宙飛行士であり、筋機能の低下が短期間で顕著に生じます。ここに視点を置けば、筋萎縮メカニズムや細胞内情報伝達系の詳細などが速やかに解明できるのではと考えています。これは、効果の高いリハビリテーションやトレーニングの開発に大きく役立ちます」。本研究センターの大平充宣スポーツ健康科学部

教授はこの領域で世界的にも著明な研究者で、現在は、北條達也スポーツ健康科学部教授（医師）と力を合わせて、空気圧で荷重を大きく減少させた条件下で生体応答を調査・分析できる「反重力トレッドミル」を利用して精力的に研究している。「反重力トレッドミル」は、最大で体重を20%まで軽減可能な最先端の体重免荷マシンである。

この他にアディポサイエンスとマッスルサイエンスの双方に関わる「酸化ストレスと栄養」をテーマにした研究が、斎藤芳郎生命医科学部准教授を中心に実施されている。酸化ストレスによってアディポカインの分泌が低下し、運動によって酸化ストレスが軽減することは判明している。新たに視野に入れている研究も多岐に及ぶ。「例

えば、無重力の状態で脂肪組織由来幹細胞を培養したらどうなるのか。細胞の初期化ができ、様々な細胞に分化することもよりたやすく出来るのでは、と期待しています」。今年4月に4年目を迎えた本研究センターでは、際立った研究の結実とともにスポーツ健康科学分野における国際的先端研究の拠点形成を目指している。





ホームカミングデー2015・同志社創立140周年記念リユニオンを終えて



2015年11月8日、ホームカミングデー2015・同志社創立140周年記念リユニオンを今出川キャンパスで開催しました。当日は悪天候にもかかわらず、約1,800人の卒業生やそのご家族にご来場いただきました。開会式に始まり、集合写真、講演会、卒業生の交流レセプションなど様々なプログラムが催されました。

今回は卒業生の皆様を学生がホスト役となってお出迎えし、ボランティア学生を中心に運営を行いました。新たな企画として同志社校友会が実施された「同志社マルシェ」では、学生が校友会支部に協力を依頼して、47の支部から名産品の提供を受けました。併せて、「1日県人会」というイベントを開催。下宿生を中心とした学生スタッフが全国各地からキャンパスに戻ってこられた卒業生と交流し、卒業生にも大変喜んでいただきました。

同窓会が企画した「いっぶくカフェ」では、参加者と一緒に讃美歌を斉唱し、「新島襄ボストン・アーモスト渡航150周年ツアー」のDVDを放映するなど、多くの方に参加いただくことができました。

その他、グリークラブによる合唱、応援団の演舞、新島旧邸見学、キャンパスツアー、子ども向けのイベントなどのプログラムを開催し、卒業生だけでなくご家族で楽しんでいただける一日となりました。次回も卒業生が母校へ集い、旧友との懐かしい一時を過ごせる一日を提供したいと考えています。(校友・父母課)

2015年度秋学期 外国語honors認定書授与式

2015年12月3日、クラーク記念館(クラーク・チャペル)にて、2015年度秋学期外国語honors認定書授与式を挙行しました。外国語honors制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)は、高度な外国語運

用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入しています。

授与式では、外国語科目成績優秀者一人ひとりに認定書と記念品が手渡されました。認定を受けたのは、文学部10人、法学部2人、商学部1人、政策学部1人、文化情報学部1人、理工学部1人、グローバル・コミュニケーション学部11人、グローバル地域文化学部3人の計30人で、言語の内訳は、英語16人、ドイツ語1人、フランス語1人、中国語4人、ロシア語2人、ハングル3人、コリア語2人、日本語1人でした。認定書を授与された学生は、以下の通りです。(敬称略)

■外国語honors(英語)

藤井 里歩(文学部・2012年度生)
浅野 友紀(文学部・2013年度生)
土橋 里穂(文学部・2013年度生)
濱田 尚志(文学部・2013年度生)
樋口 真実(文学部・2013年度生)
川原 梓(文学部・2013年度生)
井手 遥(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
桑野あやか(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
中村 遼子(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
玉井 伸幸(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
辻 明香里(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
上野 加奈(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
和崎 祥子(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
吉岡 修平(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
大野 有香(グローバル地域文化学部・2013年度生)
岡 直孝(理工学部・2012年度生)

■外国語honors(ドイツ語)

絹川 香月(法学部・2012年度生)

■外国語honors(フランス語)

出口 優里(文化情報学部・2012年度生)

■外国語honors(中国語)

溝口 利奈(文学部・2012年度生)
後藤 友莉(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)
多田羅千博(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)
加賀見遥香(グローバル地域文化学部・2013年度生)

■外国語honors(ロシア語)

伊井 寿樹(文学部・2012年度生)
塚原 基埴(法学部・2009年度生)

■外国語honors(ハングル)

西海 直也(文学部・2012年度生)
塩山 晴佳(文学部・2012年度生)
沖野 愛理(政策学部・2012年度生)

■外国語honors(コリア語)

魚 禎恩(商学部・2013年度生)
山崎 葵(グローバル地域文化学部・2013年度生)

■外国語honors(日本語)

周 林京(グローバル・コミュニケーション学部・2012年度生)
(今出川校地教務課)

「同志社フェアin熊本」開催

創立140周年を記念して1月29日、30日の両日、同志社草創期を支えた熊本バンドの故郷、熊本市で「同志社フェアin熊本」を同志社大学と同志社校友会の主催、九州学院の協賛、熊本市の後援、同志社校友会九州・沖縄ブロック全9支部の協力により開催しました。

初日は、九州学院ブラウンメモリアルチャペルにて公開講演会を開催。講演会第一部では「熊本バンドを語る」をテーマに、前九州学院院長・社会福祉法人慈愛園の内村公春理事長、新島学園の湯浅康教理事長と同志社大学神学部教授・キリスト教文化センター所長の石川立先生の3人により鼎談を行いました。

鼎談の後、グリークラブの演奏を挟み、講演会第二部では、村田晃嗣学長が「グローバル時代の教育と地域」と題して講演しました。講演会には約350人の参加がありました。夕刻からはホテル日航にて交流レセプションが開催され、約300人が参加、交流しました。

翌日は、140年前のこの日、35人の若者が集った熊本バンド結盟の地・花岡山山頂での早天祈禱会に参加。村田学長が奨励を、石川先生がお祈りを勤めました。今年は例年の1.5倍、約400人が集いました。続くゆかりの地ツアー(熊本県支部主導)では、約120人がジェーンズ邸、徳富記念園、熊本草葉町教会を訪ね、教会ではジェーンズ夫人が学生に食べさせたと伝わるシチューが再現され、試食を楽しみました。

※役職名は1月30日現在

(校友・父母課)



特定寄付奨学金募金 協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼び掛けています。

2016年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下の通りご協力をいただきました。

2015年4月～2016年1月の申込者

	申込件数	申込額
卒業生・ご父母・一般	79件	6,684,520円
教職員	52件	5,689,000円
合計	131件	12,373,520円

ご芳名(敬称略、順不同)

【卒業生、ご父母、一般】

2,000,000円	富山 俊一		
900,000円	同志社生活協同組合		
500,000円	押本 年真	公益財団法人吉田育英会	
298,000円	森田 秀夫		
100,000円	白石 卓司	安田 徹 國松 直博	
50,000円	中本 行則	北原 敏夫 渚澤 和也	
	株式会社ヒーローインターナショナル		
30,000円	北之坊 皓司	川向 幹男	
25,000円	北本 拓也		
20,520円	同志社東京校友会		
20,000円	藤原 喜久雄 浦野 利信		
	金屋 憲二郎		
15,000円	松本 邦博		
10,000円	野田 昌弘	坂入 眞之 森 一博	
	小田 邦宏	前田 耕司 佐藤 信夫	
	山中 光太郎	岡本 勲 鈴木 卓	
	小林 英彦	上野 晋	
5,000円	竹内 佳之	川野 修平 野口 勘	
	和田 忠夫	高池 国夫	

ご芳名のみ(金額非掲載)

日比野 渡	三上 保孝	高井 衛	塚嵯 英史
脇山 繁昭	伊阪 博	大堀 務	奥田 恭正
長屋 光春	山下 文憲	松原 義明	渥美 大亮
吉村 賢	中山 昭	花園 堅二	富岡 努
藤井 恵嗣	丹所 且臣	岡本 多久司	
鈴木 雄二	越智 昭彦	青山 元裕	斎藤 俊信
倉田 誠子	島田 健	野村 長宏	宮本 雅祥
兵頭 俊彦			

486,000円(匿名合計) 匿名15名

【教職員】

3,000,000円	工藤 和男		
120,000円	北 寿郎	同志社大学職員カテゴリー(仮)	
60,000円	西川 真司	植村 巧 石田 修一	
50,000円	奥村 直毅		
30,000円	吉川 健		
12,000円	北 幸史		

ご芳名のみ(金額非掲載)

兼重 雅好	藤井 邦宏	新 茂之	富田 安信
岩田 喬	林 克樹	勝本 勲	戸田 裕之
森田 佳世子	今川 晃	中村 拓也	浜中 邦弘
トロモビッチ フィリップ	酒井 優	廣田 宗之	

1,127,000円(匿名合計) 匿名26名

当募金は継続的にを行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】財務部資金課

電話:075-251-3150

e-mail:ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

少人数で留学生とともに英語で学び、幅広く教養教育科目を履修する グローバル・リベラルアーツ副専攻

2016年度生対象

2016年度より同志社大学では、広い視野をもって多角的に物事を思考し、グローバル社会で活躍するリーダーを養成することを目的として、「グローバル・リベラルアーツ副専攻」を設置します。副専攻の特徴は以下の通りです。

1. 全ての学部が受講できる

「グローバル・リベラルアーツ副専攻」は、2016年度に入学する全ての学部の受講を希望する学生を対象にしています。所属学部・学科の専門科目とは別に、全学共通教養教育科目を定められた要件に沿って履修することで、受講することができます。

2. 授業は英語、少人数で留学生とともに学ぶ国際クラス、対話型授業

同志社大学では、2016年4月に「グローバル教育センター」を開設し、人文科学・社会科学・自然科学にわたる幅広い学問分野の科目と日本の伝統・文化に関する科目を「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」として開講します。これらの科目は英語で授業を行い、そのほとんどを20人程度の少人数クラス、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ国際クラスとして編成します。事前学習を徹底し、グループワーク、ディスカッション中心の対話型授業を行うことで、柔軟な思考力と異なる文化や多様な価値観を持つ人々と協働する力を身に付けることができます。

副専攻の英語開講科目には、アーモスト大学を始め、ハーバード大学やスタンフォード大学など、アメリカの名門大学からの留学生とともに学ぶ科目もあります。

3. 外国人教員または海外の大学で学位を取得した教員が担当

「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」は、原則、外国人教員または海外の大学で学位を取得した教員が担当します。

4. 海外留学のための準備、帰国後のフォローアップに

同志社大学には外国協定大学派遣留学生制度があり、34カ国(地域)139大学(2016年2月1日現在)に半年間または1年間留学することが可能です。

海外留学のための準備、帰国後のフォローアップに「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」を受講すると効果的です。

5. 副専攻英語開講科目は、1科目のみでも受講できる

「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」は、1科目のみでも受講することができます。したがって副専攻の修了を目標にしていなくても、科目内容への関心に応じ、1科目からチャレンジすることができます。

6. 広い視野と多角的な思考力の養成

「グローバル・リベラルアーツ副専攻」では、英語で授業を行う科目に加えて、キリスト教についての理解を深める科目など、全学共通教養教育科目を日本語で幅広く履修します。自分の専攻分野とは異なる様々な学問分野を学ぶことによって、広い視野をもって多角的に物事を思考する力を養います。

7. 修了すれば、証明書が発行される

副専攻を修了すると証明書が発行されます。修了するためには、副専攻の英語開講科目を8単位以上修得することを含め、定められた要件にしたがい、全学共通教養教育科目を合計20単位以上修得し、TOEFL ITP®テスト550点相当以上のスコアを提出する必要があります。

※「グローバル・リベラルアーツ副専攻」は、副専攻完修希望者に科目受講を保証するものではありません。クラス定員、時間割などの都合により、受講できない場合があります。

同志社英語集中プログラム

「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」を受講し、海外留学を実現できるよう、Speaking, Listening, Reading, Writing のスキル向上と英語によるアカデミックスキルの修得を目指す「同志社英語集中プログラム」を開設します。副専攻の英語開講科目を履修する上で、英語力に自信がない場合は、このプログラムを受講することをお勧めします。

・イングリッシュ・プラクティクム1
・イングリッシュ・プラクティクム2
・Intensive Courses for TOEFL(Practice)
・Intensive Courses for TOEFL(Tutorial)
・TOEFL® テスト対策講座(春期、秋期)
・TOEFL® テスト集中対策講座(春休み、夏休み)など

①所属(学科／専攻) ②職名 ③主な担当科目



Messages from International Students

留学生紹介



マルコザ ユリヤ さん

2015年9月～2016年8月
日本語・日本文化教育センターに在学(ウクライナ出身)

私はウクライナの大学で、日本学や西洋学を専攻しています。言語を学ぶことに興味があり、6カ国の言語を話すことができます。その中でも日本語が最も好きで、日本に留学することを決めました。そして文部科学省の試験を受け、同志社大学で勉強することになりました。最初の目的は日本語能力試験1級(N1)で満点を取ることでしたが、今は日本の大学に進学する目標を掲げています。

初めて日本に来て空港を出た時、なぜか「ただいま」という気持ちになりました。また不思議なことに日本人からハーフとよ

ク Украине я учусь на факультете сравнительной лингвистики Японии и англоязычных стран. Изучать языки — мое хобби. Я могу говорить на шести языках. Больше всего мне нравится японский язык. Именно поэтому я решила приехать учиться в Японию. Так я сдала экзамен японского правительства MEXT и стала студентом по обмену в университете Досия. Вначале моей целью было набрать максимальный балл на «Нихонго норёку сикэн N1», но теперь, помимо этого, я также планирую поступать в японский университет.

Когда мы приземлились в Кансайском аэропорте, меня охватило странное ощущение, что я вернулась домой. К тому же, на удивление, меня часто путают с японкой. Наверное, всем легко дается подметить мою японскую натуру. Мне нравится традиционное японское искусство и театр Но в особенности. Иногда я практикую медитацию по дзэну, а дома готовлю традиционную японскую еду васёку. Думаю, что вернуться в Украину совершенно другим человеком. Хотя до этого и осталось пять месяцев, мне кажется, что дни пролетят незаметно. За это время я хочу встретиться с новыми интересными людьми и создать как можно больше драгоценных воспоминаний. А также определиться с тем, что я хочу делать в будущем.

Markoza Yuliia

く間違えられます。日本を愛し、心は日本人だということが皆さんにも伝わっているのでしょうか。能楽を始め様々な伝統芸能を楽しみ、座禅も体験し、家では和食もつくるようになりました。今、ウクライナに帰ったら別人のように思われるかもしれません。

帰国まであと5カ月ありますが、きっと時間はあっという間に経つだろうと思います。その間は新しいことに挑戦して、いろいろな人と出会い、できるだけたくさんの思い出をつくりたいです。そして、将来、自分がやりたいことも見付けたいつもりです。

マルコザ ユリヤ

INTERVIEW

同志社人訪問



ブルースシンガー&ギタリスト

田中 名鼓美さんに聞く

今回の同志社人

田中 名鼓美 さん

【1982年 文学部英文学科 卒業】

たなかなこみ/京都市出身。父親の影響で幼少の頃から洋楽に親しんで育つ。同志社女子中学校・高等学校から同志社大学に進学。同大学の文化系公認団体「ライラックレインボーズ」で出会った仲間と5人でYAMAHA主催「8.8Rockday」に出場。決勝大会まで勝ち進み、脚光を浴びるが、卒業を前に惜しまれながら解散。その後、時を経て2000年に音楽活動を再開。ネイティブレベルの英語で歌う圧倒的な表現力の豊かさが高く評価され、昨年、米国のブルース雑誌主催「世界の女性ミュージシャンTOP25」でも7位に選出されている。

今回のインタビュー



早見 真由 さん

【文学部英文学科 2年次生】

はやみまゆ/大阪府出身。洋楽が大好きで1年次生の時から「ライラックレインボーズ」に所属。現在、ゼミではアイルランドの文学・演劇を研究中。直近、同国への留学を予定。また、アルバイトで小学生の女の子にクラシックギターを教えている。卒業後は英語を生かせる分野に進みたいという。

魂に染み入るような歌声で、ブルースを愛する人々の心を魅了し続け、米国の音楽雑誌主催「世界の女性ミュージシャンTOP25」で7位にランクイン。世界で活躍する田中名鼓美さんに、現在の多彩な音楽活動の起点となった同志社大学時代の軽音サークル「ライラックレインボーズ」の練習場で、在学生がインタビューしました。

アマチュアバンドの登竜門「8.8Rockday」で決勝進出

早見 名鼓美さんの「音楽との出会い」を教えてください。

田中 父親が洋楽の大ファンだったので幼い頃からカントリーやデキシーランドジャズのレコードが日々流れている家庭で育ちました。振り返れば、それが私の「音楽との出会い」です。小学校の5年生の時にはラジオの深夜放送から流れるポップスに夢中でした。アコースティックギターを初めて手にしたのは中学1年の時です。同志社女子中学校に入学したお祝いに祖母がプレゼントしてくれたのです。小躍りするほどうれしかった。また、学校ではアメリカ人の先生に、英語だけでなく、ビートルズを始めとする欧米の音楽や文化も教えていただきました。

この頃に私の中で音楽と英語が交響し、何よりも大切なものになったのです。

早見 バンドなどの音楽活動を始めたのはいつごろですか。

田中 本格的にロックバンドを結成したのは高校時代です。そのためにエレキギターが欲しかったのですが、高校生ではローンが組めません。そこで、顔見知りの楽器屋さんに頼み込んで「毎月のお小遣いから3千円お支払いする」という約束で手に入れました。文化祭で同志社女子高校初のライブを代行したのですが、これが上を下への大騒ぎになって(笑)。「不良になる!」、「大学へ進学できなくなる!」と先生方にこっぴどく叱られました。

早見 大学時代にYAMAHA主催のコンテストで決勝大会まで勝ち抜かれたのですね。



INTERVIEW 同志社人 訪問

ブルースは歌う人の魂が際立ち、誰の心にも深く響く。

田中 「ライラックレインボーズ」で出会った友人と5人で女性バンドを組み、2年次生の時に「8.8Rockday」というアマチュアバンドの登竜門とも称されていたコンテストにR&Bグループ「烏丸車庫」で出場しました。私はいつもこの停留所から通学していたのですが、市電が廃止されることになり、その記念としてネーミングしました。インパクトの点でも申し分ないと思って決めました。コンテストのことは楽器屋さんのお兄さんに教えてもらうまで知らなかったの、軽い気持ちで出場したのですが、あれよあれよという間に最後の本選まで勝ち残ったのです。もう、無我夢中という感じでしたね。演奏はアルバムにも収録していただきました。その後、ライブハウス、ラジオ、各大学の文化祭などで音楽活動を続け、

充実した日々を満喫。京都のライブハウスで催したバンド解散ライブもファンが押し寄せて大盛況でした。

大病後に音楽活動を再開 初のソロアルバムが大好評

早見 卒業後、すぐにミュージシャンになられたのですか。

田中 特に「プロになりたい!」という意識はなくて、就職したのを契機に音楽活動はやめました。再開したのは2000年、40歳の頃です。大病をして自宅療養していた時に「また、音楽がしたい。今、やらないともうできないかもしれない」という強い思いに駆られて自宅の近くにあった楽器店の「ゴスペル教室」に入会し、活動を再開しました。その翌年にブルースギタリストの故・塩次伸二さんに出会ったのです。その後、塩次さんが実は「ライラックレインボーズ」の大先輩で、「8.8Rockday」の本選時の審査員だったことを知り、不思議な巡り合わせに驚きました。お誘いを受けて「塩次伸二ギタージム」に入門。「塩次伸二バンド」のメンバーとしてライブ、コンサート、イベントなどに参加し、2年後に自身のバンドも結成しました。

早見 海外も含めて、その後の音楽活動を教えていただけますか。

田中 2006年にアメリカテキサス州にあるブルースの聖地として名高い「アントンズ」というお店で演奏に飛び入りする機会に恵まれました。ニューオリンズの代表的なミュージシャン「ネヴィルブ

ラザース」のシリル・ネヴィルさんを頼って渡米した時のことです。お客さんから信じられないくらい拍手をいただいて、何人もの方が「CDを買いたい!」と言ってくれたのです。これに後押しされて翌年、BSMFレコードから初のソロアルバム「Grabbed My Heart」を全国発売しました。大好評でフランスのラジオ局でもオンエアされ、ロック界の大御所・内田裕也さんからも直接お電話をいただき、「すごく良かった!」と褒めていただきました。これを機に関東にも進出し、海外でも継続的に音楽活動を展開するようになりました。

早見 「ハリケーンカトリーナ」の募金活動でも脚光を浴びられましたね。

田中 ニューオリンズが壊滅的な被害を受け、世界的なニュースになりました。2005年です。当地に住んでいる日本人の友人がその時、日本に里帰りしていて、ニューオリンズに戻れなくなってしまいました。そこで「何か私にできることはないのか…」と思ったのがきっかけです。ホームページを立ち上げて、募金活動を試みると多くの方が賛同してくださり、支援の輪が全国的に広がっていききました。その活動がマスコミにも大きく取り上げられ、NHKテレビでもチャリティーコンサートの模様も放映されました。これには後日談があり、2014年にルイジアナ州で開催された「Little Walter Music Festival」に招待された時、私の当時の募金活動が紹介され、たくさんの人々に「ルイジアナのために本当にあ

りがとう。今度は私たちがあなたをもてなす番です」と言われたのです。10年前の活動が新たな繋がり^{つな}を生み出したことに、とても感動しました。

早見 さらに、米国雑誌で女性ミュージシャン7位になった時は、どのようなお気持ちでしたか?

田中 雑誌『Blues-E -News』が主催した昨年度の企画です。世界で活躍するインディーズ系の女性ミュージシャンを対象にファン投票でトップ25が選出され、私もなんと7位にランクインしていたので大感激。日本人がブルースで海外の人々に認めてもらうのは非常に難し



いことですから、本当にうれしかったですね。これからの最大の目標はグラミー賞です。このようなとてつもない夢を語ると、誰もが驚きますが、願うのは自由です(笑)。「こうなりたい!」というポジティブなイメージを抱き続けることは非常に大切です。目指さないものは、決して叶わないからです。

音楽を通じて人に寄り添い 心の絆を深めていく

早見 ドラマチックな半生ですが、特に大切にしておられることは何ですか。

田中 あるファンの方の「肉親との別れがあり落ち込んでいましたが、名鼓美さんの歌を聴いて元気が出ました」という言葉が心に深く残り、「音楽を通じて人に寄り添うことができる」ということを実感しました。私が何よりも大切にしているのは「人との繋がり^{つな}」です。出会いがあり、その絆を深めることで、ここまで来ることができたと思っています。大病を患い、その後遺症のパニック障害も克服してきましたが、それも人生の大きな糧になっています。

早見 母校である同志社での学びの日々についてお聞かせください。

田中 同志社女子中学校から大学まで



同志社で青春時代を過ごしたわけですが、「同志社が私を育ててくれた」と思っています。自由でありながら、野放しではない。誰もが自分の意志で自らの個性と能力を開花させようとしている。いろいろな生き方があることを、このキャンパスで知りました。思い出は数多くありますが、英文学科の最後のゼミ「英詩研究」で探究したシェークスピアの詩の美しさ、韻を踏む楽しさは、今も大切にしています。卒業論文に選んだ「ビートルズの歌詞」も忘れられない。後悔といえば、もっと広く深く勉強すべきだったということですね。例えば美学や映画、そして新島

襄先生のことも…。大学は知識の宝庫だということが、今ならよくわかります。できることなら、もう一度、同志社大学で学び直したいです。

早見 最後に改めてお聞きますが、名鼓美さんにとってブルースとは…。

田中 ブルースは奴隷であった黒人の生活から生まれた音楽です。つらい生活を歌うことによって発散してきたと言われていています。曲の構成も歌詞もシンプルで、飾りけがない。でも、だからこそ歌う人の個性、その魂が際立つ。日々の暮らしに寄り添った歌なので、誰の心にも深く響く。そこが永遠の魅力ですね。

インタビューを終えて

心の奥底から音楽を愛し、自らの翼で夢を追い続ける 名鼓美さんの生き方に感動し、大きな勇気をもらいました。

大学を卒業後、長年にわたって音楽活動を休止されていたことも、大病を患われたことも、今日初めて知りました。全身全霊で愛する音楽が不死鳥のような復活のエネルギーの源になったのだと思います。世界の揺るぎない評価に甘んじることなく、さらに高みを目指して突き進んでおられる姿に感動しました。「つまづいた時に立ち直れたら、その力で人を救える」、「人との縁に深く感謝している」という言葉にも感銘を受けました。偉大な先輩にインタビューできる機会が得られたことに感謝しています。



インタビューー
早見 真由 さん
文学部英文学科 2年次生



とある
三木 貴さん

[2002年 工学部電気工学科卒業/
2008年 工学研究科博士課程(後期課程)電気工学専攻修了]
一般財団法人 電力中央研究所 電力技術研究所(雷・電磁環境領域)
主任研究員 博士(工学)

My Job, My Life

私と「仕事」 第69回

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。その姿が学生の皆さんの将来のキャリア・プランに役立てば幸いです。

高木 真子さん

[2013年 経済学部卒業]
株式会社クボタ
農業ソリューション事業推進部業務グループ



多くの謎が残る雷を自らの手で解き明かし、 人々の豊かな暮らしに貢献したい

WORK OF ONE DAY



🕒 10:00
昨夜東京で落雷があったので、観測室で雷のデータを確認



🕒 12:30
関西を懐かしみ、疲れた時や頑張りたい時に食べています



🕒 14:00
電力会社の方たちに、観測状況や研究内容について説明



🕒 15:30
ロゴスキーコイルと光変換器に異常がないかチェック

電力中央研究所 塩原実験場(栃木県)
塩原実験場では、より合理的な送配電線の耐雷設計を実現するための研究が日々進められています。



ロゴスキーコイルの試験風景

放電試験の様子

電力中央研究所は電力技術の研究所で、私は雷害対策を検討する研究員として働いています。実際の落雷を観測しながら雷被害や停電を減らす方法を考えたり、雷の人工発生装置による高電圧の放電試験を行ったりしています。

当所では、自立式電波塔として世界一の高さを誇る東京スカイツリー®でも雷の電流波形を観測しています。その観測に欠かせない電流計測装置が、栃木県にある当所の塩原実験場で開発した「ロゴスキーコイル」。全長約30mのコイルを地上497mの高さに設置しています。東京スカイツリー®には年10回ほどの落雷が発生しますが、平野部の同一箇所への落雷数としては驚異的な多さです。世界最大級のコイルを用いた、世界で最も高い場所での観測結果に、世界中の雷の研究者が期待を寄せています。

雷被害に対し合理的な対策をとるために、雷の電氣的な性質を知る必要があります。雷は自然現象なので統計的な評価をしますが、どんな大きさの電流がどれだけの時間流れ、その雷は何%の確率で発生するのか。実は、まだこれらは明確になっていません。例えば発電所から電気を運ぶ電力会社の送電線。高さ数十mの鉄塔のサイズや形を決めるには、

想定する雷の大きさも影響します。特に日本は土地が限られているため、鉄塔はなるべく小さくしたいのですが、その分停電のリスクが高まり、瞬間的な停電でも大損害を被る地域は少なくありません。また鉄塔は1基当たり数億円と言われ、国内の20万基以上のメンテナンス費用は年間約4000億円。雷の影響が少しでも小さいことを示し、数%コスト削減できれば、非常に大きな効果です。雷の謎を解明し、人々の豊かな暮らしに貢献することが私の使命。雷の研究者は日本でもごくわずかなので責任重大ですが、その分やりがいも感じられます。

私の仕事は研究職とはいえ、様々な方と話す機会が多くあります。企業の方や国内外の研究者、大学の先生、作業員、学生さんなど、老若男女と話をするので、相手の立場に沿ったコミュニケーションが不可欠。これには同志社での経験が役立っています。中学から同志社香里に通い、高校・大学ではマンドリンクラブに所属。1910年創部のためOBの層がとても厚く、幅広い年代の方々と関わる中で、自身の振る舞い方を学びました。「まずは、やってみる」。学生時代に培った行動力・交渉力を生かして、これからも有意義な雷研究を続けていきたいと思っています。

入学時から志望していた経理の仕事に就き 事業部の計画作成にも携わっている

クボタは農業機械を中心に食料・水・環境の分野で先進の製品群を製造・販売している会社です。私は農業ソリューション事業推進部業務グループで経理を担当しています。この春で4年目を迎えます。大学に進学する前から論理的で明確に結果の出る数学が好きで、将来は数字に関わる分野に進みたいと考えていました。経済学科を選んだのも同じ理由です。1年次生の頃には具体的にメーカーの経理の仕事に就きたいと思っていたので、在学中に簿記の資格も取得しました。現在の会社を志望したのは職種別採用で財務経理の新卒社員を募集していたからです。通常の事務系採用では入社後にどのような業務に配属になるのかわからないので、「これだ!」と即決して入社試験に挑みました。

就職した当初は「居なければ困る」存在を目標にしていました。経理は専門性の高い職種なので、経験と実績を積み重ねて、誰からも認められるようになりたいと意気込んでいたのです。しかし今はそれ以上に、会社に変化を与える事ができる「将来のために必要」な存在になりたいと思っています。そのため、大先輩ばかりの会議の場でも、自分の考えを積極的に述べるよう心がけ

ています。熟考した上で、自身が確信した意見であれば、真剣に耳を傾けてもらえるし、的確な助言も得られ、新たな提案を具現化するための後押しもしていただけます。恵まれた職場環境だと実感しています。また社員は皆、人間的に温かく、何事にも真摯に向き合っています。そのような社風も日々の仕事に前向きに取り組める原動力になっています。現在は、事業部の短期計画作成も行っています。例えば営業部への売上予定の確認など多方面からの情報収集も計画立案の重要な前提です。このような仕事に関わるのが夢だったので、やりがいは申し分ありません。いつの日か大きな事業計画にも参画できればと願っています。

大学時代に学んだ経済学的な思考や分析、会計学なども現在の仕事に役立っています。「なるほど、そういうことか!」と改めて認識することも少なくありません。また、1年次から4年次まで応援団吹奏楽部に所属していたので、理系を含めた他学部の学生との交流も深まり、その中で異なる考え方などを知ることができました。在学生の皆さんも、見聞を広め、貴重な体験を得るためにも、課外活動や留学など自分がしてみたいことに積極的に取り組むことをお勧めします。

WORK OF ONE DAY



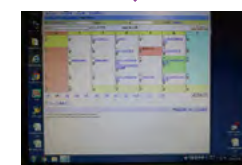
🕒 9:05
出社時に欠かせない朝一番の仕事はメール確認



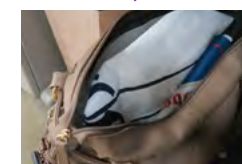
🕒 10:00
経理の新システムを導入するための定例会議に出席



🕒 12:15
今日は食堂ではなく社内にあるカフェK'rossingの美味しいランチを



🕒 15:30
グループ内で共有しているスケジュールを改めてチェック



🕒 18:15
小学生の頃から西武ライオンズの熱狂的なファン!!職場から球場へ直行する日も

応援に行こう! 体育会試合日程

【アーチェリー部】
●5月28日(土)・29日(日)
第27回全日本学生アーチェリー西日本大会 熊本県菊陽杉並木公園

【バスケットボール部】
●4月9日(土)・10日(日) 京都総合バスケットボール選手権大会
●4月23日(土)・24日(日)・5月3日(火・祝)～5日(木・祝)
関西学生バスケットボール選手権大会

【ボート部】
●5月1日(日)～4日(水・祝) 朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場

【フェンシング部】
●4月23日(土)・24日(日) 関西リーグ戦 大山崎体育館(京都府)

【剣道部】
●5月15日(日)
第64回関西学生剣道選手権大会
第44回関西女子学生剣道選手権大会 舞洲アリーナ(大阪府) 9:00

●5月28日(土)・29日(日)
第61回西日本学生剣道大会 福岡市民体育館 9:00

【空手道部】
●4月29日(金・祝)
第50回関西学生空手道個人選手権大会 兵庫県立総合体育館 9:00

●5月29日(日)
第54回西日本大学空手道選手権大会 近畿大学記念館 9:00

【準硬式野球部】
●4月7日(木)・8日(金) 関西六大学準硬式野球春季リーグ戦
大阪南港中央野球場 7日13:00、8日10:30(・阪大)

●4月20日(水)・21日(木) 関西六大学準硬式野球春季リーグ戦
わかさスタジアム京都 20日10:30、21日13:00(・立命館)

【レスリング部】
●4月3日(日) ジュニアクイーンズカップ 駒沢体育館(東京都)

●4月23日(土)・24日(日)
JOCジュニアオリンピック 横浜文化体育館(神奈川県)

【ソフトテニス部】
●4月16日(土)・17日(日) 関西シングルス選手権大会 同志社大学他

●5月3日(火・祝)・4日(水・祝)
関西学生春季リーグ戦 マリンテニスパーク北村

●5月14日(土)・15日(日)
全日本シングルスソフトテニス選手権大会 明日香(奈良)

【水泳部】
●4月4日(月)～10日(日)
日本選手権水泳競技大会 東京辰巳国際水泳場

●5月20日(金)～22日(日)
ジャパンオープン2016 東京辰巳国際水泳場

【相撲部】
●4月29日(金・祝) 全日本大学選抜相撲宇和島大会
宇和島市営体育館特設土俵(愛媛県) 9:00

●5月3日(火・祝) 全国大学選抜相撲宇佐大会
宇佐市総合運動場宇佐相撲場(大分県) 9:00

●5月5日(木・祝) 全国選抜大学 社会人対抗相撲九州大会
福岡久山相撲場(福岡県) 9:00

●5月8日(日) 西日本学生相撲新人選手権大会
堺市大浜公園相撲場(大阪府) 13:00

●5月15日(日) 全国選抜大学 実業団対抗相撲和歌山大会
和歌山県営相撲場(和歌山県) 9:00

【射撃部】
●5月13日(金)～15日(日)
第63回春季全関西学生ライフル射撃選手権大会
第22回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会
第11回春季全関西学生ピストル射撃競技大会
能勢町国体記念スポーツセンター(大阪府)

【卓球部】
●4月15日(金)～17日(日)
第58回関西学生卓球新人大会 池田市立五月山体育館

●4月29日(金・祝)・30日(土)
5月2日(月)・3日(火・祝)・7日(土)・8日(日)
平成28年度関西学生卓球春季リーグ戦
交野市立総合体育施設・京都市横大路運動公園体育館・近畿大学記念会館

●5月22日(日)
第86回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)関西予選
近畿大学記念会館

【ヨット部】
●5月7日(土)・8日(日) 京滋四大学ヨット定期戦 琵琶湖

●5月21日(土)・22日(日) 関関同立ヨット定期戦
新西宮ヨットハーバー(関西大学 関西学院大学 立命館大学)

●5月29日(日)・30日(月) 同志社立教ヨット定期戦 琵琶湖

● ローム記念館プロジェクトメンバー募集!

同志社ローム記念館では、学生が主体となって企画・運営する課外プログラム「同志社ローム記念館プロジェクト」を展開しており、様々なテーマのプロジェクトが活動しています。活動期間は1年間で、現在、本年度採択された新規プロジェクトに参加するメンバーを募集しています。同志社大学・同志社女子大学の学生を中心に、学部・学年の枠を越えた多様なメンバーが集まるプロジェクトで、新しいことにチャレンジしてみませんか? プロジェクトの一覧やメンバー申込票のダウンロードは、ローム記念館webサイト(<http://rohmdoshisha.ac.jp>)から。メンバー募集に関するイベントにもぜひご参加ください。

メンバー募集プログラム

●4月2日(土)～5日(火) 11:00～16:00 「プロジェクト合同説明会」
ローム記念館正面入り口付近でブースを出展します。

●4月13日(水) 16:45～19:15 「プロジェクト交流会」
劇場空間でのプロジェクト紹介の後、どなたでも参加できる交流会を開催します。(軽食付)

●4月11日(月)～15日(金)、4月18日(月)～22日(金) 16:45～18:45
「プロジェクト個別説明会」
各プロジェクトが活動拠点としているプロジェクトルームにて個別に説明会を行います。各イベントの詳細はwebサイトや広報誌「ippo」をご覧ください。

【お問い合わせ先】
京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)
TEL:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対 象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます) 【会費無料】

【特 典】寒梅館イベント情報の郵送(希望者のみ)、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居などへのご案内、寒梅館レストランでの割引 etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

第34回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人との触れ合いの中で自分自身を見つめ直すという趣旨で行われます。学生が主体となって触れ合いをつくり上げるプログラムです。

【実施期間】8月中旬 ※出発前に3回程度のミーティングを行います。

【お申し込み】4月下旬～5月下旬 【参加費用】29,000円(予定)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※今出川校地、京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。詳細は後日HPなどでお知らせします。

♪ 観に行こう聴きに行こう ♪ —学生団体4月・5月の活動予定—

【学内】
●4月5日(火) 交響楽団・ハンドベルクワイア・ギタークラブ・マンドリンクラブ・ピアノ研究会
「器楽ブロック合同演奏会」今出川 寒梅館アトリウム 13:00～15:30(12:00開場) 無料

●4月7日(木) 交響楽団 「2016年度 同志社交響楽団 新歓コンサート」
今出川 寒梅館ハーディーホール 18:30～20:30(18:00開場) 無料

●4月9日(土) Fork Song Society(F.S.S) 「新歓ライブ」
今出川 寒梅館クローバーホール 11:00～18:00(10:30開場) 無料

●4月12日(火) マジック&ジャグリングサークルHocusーPocus
「HocusーPocus新歓ステージ」今出川 寒梅館ハーディーホール
12:25～12:55(12:00開場)/18:20～18:50(18:00開場) 無料

●4月14日(木) 喜劇研究会 「喜劇研究会 お笑いライブ」
今出川 寒梅館クローバーホール 12:45～14:30予定(12:30開場) 無料

●4月16日(土) マジック&ジャグリングサークルHocusーPocus
「HocusーPocus新歓ステージ」京田辺 ハローホール
12:25～12:55(12:00開場) 無料

●4月17日(日) 法学研究会 「常設法律相談会」
今出川 寒梅館会議室2A・2B・2C 13:00～16:30 無料

●4月21日(木) nuef 「ファッションショー」
今出川 寒梅館クローバーホール 12:40～13:00(12:15 開場) 無料

●4月23日(土) F. B. I 「新歓上映会」
今出川 寒梅館クローバーホール 12:30～18:00(12:00 開場) 無料

●5月11日(水) 軽音楽部 「新歓コンサート本番」
今出川 寒梅館ハーディーホール 15:00～17:30(14:30 開場) 無料

●5月15日(日) 法学研究会 「常設法律相談会」
今出川 寒梅館会議室2A・2B・2C 13:00～16:30 無料

【学外】
●5月1日(日) マンドリンクラブ
「全日本学生マンドリンクラブ連盟京都ブロック第53回合同定期演奏会」
長岡京記念文化会館 18:00～20:00(17:30 開場) 無料

●5月29日(日) マンドリンクラブ 「第168回定期演奏会」
長岡京記念文化会館 14:00～16:00(13:30 開場)
一般500円・高校生無料(要学生証提示)

WOT(ワット)＝“What’s On Thursdays!”

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員は全て無料

●4月21日(木)
『白ゆき姫殺人事件』(2014年/日本/126分/監督:中村義洋)
10:45 / 14:00 / 18:30 料金:一般1300円、Hardience会員・学生・前売1100円 共催:京都映画センター

●4月28日(木) 《サミュエル・フラー連続上映!》
18:30 トーク:樋口泰人(boid主宰)
19:00 上映『ホワイト・ドッグ』(1982年/アメリカ/90分)
料金:一般1500円、シニア1100円、学生1000円、Hardience会員・京都シネマ会員800円
主催:boid、京都シネマ、同志社大学今出川校地学生支援課

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週木曜日、(日・EUフレンドシップウィーク)などの催しを予定しています。

アルコ ボランティア支援室学生スタッフARCO募集!

ボランティア支援室学生スタッフARCOは、同志社大学の学生のボランティア活動を推進することを目的に、ボランティア情報の発信・紹介やボランティアイベントの企画運営などの活動を行っています(活動は今出川校地)。「ボランティア、なんとなく気になる…」「大学生になったからにはボランティアに取り組みたい!」「サークルではなく、大学のスタッフとして活動したい!」という方は、まずは募集説明会へお越しください!詳しくは、ボランティア支援室HP(<http://volunteer.doshisha.ac.jp/>)をご確認ください。

【お問い合わせ先】ボランティア支援室(今出川) TEL:075-251-3236 E-mail:ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

クローバーシアター



開講期間中の毎週火曜日、映画史に残る名作上映を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】本学学生・教職員は全て無料

●4月18日(月) 特別編
ジャンヌ・バリバール(女優・歌手)来館決定! 映画上映&トーク ※詳細未定

●4月19日(火) 《ハリウッド50's ①》入場無料
17:00 『ビッグ・コンボ』(1954年/89分/監督:ジョーゼフ・H・ルイス)
18:45 『キッドで殺せ』(1955年/106分/監督:ロバート・アルドリッチ)

●4月26日(火) 《ハリウッド50's ②》入場無料
17:00 『歩道の終わる所』(1950年/95分/監督:オットー・プレミンジャー)
18:45 『緑色の髪の少年』(1948年/83分/監督:ジョゼフ・ロージー)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週火曜日、(日・EUフレンドシップウィーク)などの催しを予定しています。

安中・会津キャンプ参加者募集

同志社の創立者・新島襄は安中藩江戸屋敷で武士の長男として誕生しました。同志社創立の恩人と言われる山本覚馬は会津藩の砲術師範の家に生まれました。このキャンプでは新島家旧宅、安中教会、新島学園や、山本覚馬と新島襄の妻・八重の生家跡地、鶴ヶ城などゆかりの地を巡ります。安中そして会津若松と同志社との関わりを知るなかで、同志社に影響を与えた人々の生き様やキリスト教について学ぶとともに、自らを省みる試みです。

【実施期間】9月7日(水)～9日(金)の2泊3日 【お申し込み】5月中旬～6月上旬(予定)

【募集人数】15人 【参加費用】20,000円程度

【説明会】
今出川 5月10日(火)12時30分～ キリスト教文化センター集會室(クラーク記念館1階)
京田辺 5月11日(水)12時30分～ キリスト教文化センター・セミナー室(同志社京田辺会堂光館)

【お申し込み・お問い合わせ先】
今出川校地 キリスト教文化センター TEL:075-251-3320
京田辺校地 キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!



同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立って、責任をもって支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・映像字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。活動時間にあわせて、謝礼をお支払いいたします(900円/時間)。その他行事・イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP(<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。

【お申し込み・お問い合わせ先】
障がい学生支援室(今出川) TEL:075-251-3273 E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp
障がい学生支援室(京田辺) TEL:0774-65-7411 E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

東京での就職活動を 予定している学生の皆さんへ



東京で就職活動をされる方は、東京サテライト・キャンパスをご利用いただけます。東京サテライト・キャンパスは、東京駅から徒歩6分、銀座線「京橋」駅は目の前という大変便利な場所にあります。証明書類・学割の発行、PC利用、荷物の一時預かりや、更衣室利用、量エリアでの仮眠・休憩なども可能です。サービス内容や開室時間については、<http://doshisha-tokyo-hub.jp/> をご覧ください。

【住所】
〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目7番19号 京橋イースビル3階
TEL:03-6228-7260